

コラム

米原爆に

日本政府が

嚴重抗議

昭和二十年八月六日、米軍機は広島市の街地区に対し新型爆弾を投下し、瞬時にして多数の市民を殺傷し、同市の大半を壊滅した。(中略)

その被害は広範囲にわたり交戦者・非交戦者の別なく、また男女老幼を問わず、すべて爆風及び輻射熱により無差別に殺傷せられ、その被害は甚大なるのみならず、未だ見たことのない残酷なものである。(中略)

米国が今回使用した新型爆弾は、従来使用を禁止されている毒ガスその他の兵器を、遙かに超えるものである。(中略) 従来のかかる兵器にも比較できない、無差別かつ残酷性を有する爆弾を使用したことは、人類文化に対する新たな罪状である。

日本政府は自らの名において、且つまたは全人類及び文明の名において米政府を糾弾すると共に、即時かかる非人道的兵器の使用を放棄すべきことを嚴重に要求する。

×

×

右は昭和二十年八月十日、日本政府が、中立国のスイス政府を通じて米政府に対して行なった抗議文の抜粋である。(参照・椎名麻紗枝氏・岩波ブックレット)

この抗議文を読むと、私達被爆者が訴えている抗議文と少しも変らない。今、日本政府は非核三原則を唱えながら、高知県知事の要望する非核証明を拒み、戦争支援のガイドラインを進めようとしている。私達は全人類と文明の名において原爆を糾弾できる日本政府が欲しい。(T)

347-2-299/31564